

この世の中を正すためには幕府を倒さなければならない。乗務員として勤務する諏訪交通（諏訪市）で7月から、赤報隊隊長の相楽総三（1839〜68年）ゆかりの地を巡りながら一人芝居を披露する観光タクシー「サムライタクシー」を始め、元テレビアナウンサーとし

憩い語らい

ての語り口や、歴史ライターとしての知識を生かし、幕末の武士に扮して熱っぽく語る。「諏訪の豊かな歴史の魅力を発信していきたい」

幕末に倒幕を志したが「偽官軍」の汚名を着せられて処刑された相楽に関して、騒動の歴史的

諏訪交通で「サムライタクシー」^{ながしま}長島 ^{くにひで}邦英さん 49歳 諏訪市



背景やエピソード、推測される人柄を説明し、その後の時代に及ぼした影響を知ってほしいと企画した。なぜ偽官軍と呼ばれ

るようになったのか。捕らわれた牢で世話人に対し、その思いを語る設定で、処刑地とされる下諏訪町の魁塚や、かつての同志で、和田鎮合戦で戦死した水戸浪士の墓「浪人塚」（下諏訪町）などを巡る。

埼玉県行田市生まれ。戦国武将に焦点を当てた歴史漫画が好きで小学4年生の頃、NHK大河ドラマ「独眼竜政宗」にはまった。以降、舞台となった現地を訪ねて回ったり、図書館で書籍を読みあさったり、インターネットを活用したりと独学で知識を深めた。

これまでに歴史ライターとして「黒武者因幡」のペンネームでユーチューバーらに100本以上の歴史シナリオを提供。コミュニティFMやテレビ局アナウンサー、企業の広報、博物館の支配人や予備校の職員など転職を繰り返した自身の経験と、理想の主君を求めた武士の振るまいを重ね合わせ、自分の意志に正直に生きる大切さ

を説いた電子書籍も発行している。

昨年は諏訪地域などを舞台にしたアニメ番組「逃げ上手の若君」の舞台となった諏訪大社や神長官守矢史料館（茅野市）などを巡る観光タクシーも企画。より物語を知ることができたと好評だ。同僚にも歴史をひもとき、案内できる人材を増やしている。

「諏訪地域は歴史の転換点となる重要な場面に関わっている」。諏訪へ移住したきっかけは転職だったが、歴史に触れるにつれ、地域への探究心が強くなっているという。

将来的には「赤報隊を大河ドラマとし誘致したい」との目標がある。「物の豊かさなどは資本が強い都市部にはかなわないが、この地域の歴史や伝統は他の地域に絶対に奪われない。歴史を観光コンテンツに地域を盛り上げていきたい」と力を込めた。

赤報隊に光諏訪地域の歴史発信したい